THE ILC GAZETTE

横浜隼人高等学校 国際語科通信

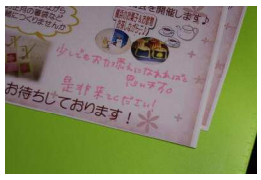
Vol.１９
2017･11･27

瀬谷ボランティアバス（１１月１７日～１９日） 東日本大震災の翌年から瀬谷区社会福祉協議会の主催で本校の生徒も参加しています。今回は今までで最多人数の２９人の隼人生が被災地で何か役に立てることはないかとボランティアに参加しました。

夜行バスで１０時間！

希望フェスからの寄付

陸前高田社協の佐藤さん



仮設住宅の方へ
メッセージ

「奇蹟の一本松」の前で

瓦礫が残る陸前高田

高田東高校の高橋君

ホテルでの食事風景

釜石ラーメン
おいしい！

仮設住宅で集合写真！

鵜住居仮設住宅を訪問し、エアコン・窓の掃除や、一緒にお正月飾り作りを行いました。

元釜石社協
事務局長
矢浦さんから
当時のお話

１日、お話を伺ったりボランティアを
したりした後、夜は振り返りをしました。

帰りの日、釜石駅で
お買い物タイム

〈生徒の感想から〉 被災地を見に来て欲しいと強く思う。テレビなんかではわからない、気づけないことがたくさんある■横浜に着いたら次は「伝える」ということをしていきたいと思う。私の周りにいる一人でも多くの人が、被災地のことについてもっと知りたいと思ってくれたらいいなと思う■復興の手助けをしたい！実際に自分の目でみてみたい！そういう気持ちで参加しましたが、想像をはるかに超える状況に驚き、恐怖感も抱きました。今思うこういう言葉は誰にでも言えるけど、実際自分の目で確かめることが確実に私にとってもプラスになったと思います！■鵜住居では多くの方が仮設住宅に住んでいて驚きました。住んでいた方は、あたたかくてとても良い人たちでしたが、５年も住んでいて不便なこともあると聞いて、少しでも早く復興できるように、自分でも何かできることがあればしたいと思います■仮設住宅では現地の高校生（県立釜石高校）と交流しながら掃除をしました。少しの掃除、窓を拭くだけで笑顔で来てくれてわざわざありがとうね、とお声をかけてくださって、とてもうれしかったです■来年ボラバスにまた参加できるかは分かりませんが、今の気持ちを忘れずにいることが最大のボランティアになるなと思いました■一つの命を守ることの大切さ、日々こうして生きていることへの感謝、常に自然災害と隣り合わせで生活していることを忘れないようにと思った。

ペンパルコミュニケーション（１１月１５日） 明治学院大学学生ＮＰＯ団体「Junko Association」が来校して、ＩＬＣ生徒が夏休み前に書いた文通の返事をもらう会が催されました。同時に文通相手の国であるミャンマーの現代事情を紹介していただきました。、推薦入試を控えた３年生も異文化学習を深めるために参加して、とても参考になった様子でした。

国際学科、国際キャリア
学科の二人の学生が
ミャンマーについて
プレゼンしてくれました！

今回も手紙（英語）
とともにたくさんの
プレゼントが！

民族衣装「ロンジー」試着

日本でありそうでなさそうなプレゼント！

地域清掃（１年生　１１月１３日） ＩＬＣ１年生が元気に学校周辺の地域のゴミを拾ってきました。